

平成30年度事業計画

I. 公益財団事業計画と予算の議決及び事業報告と決算の承認等

執行担当	定款	執行内容（定款条文の要点抜粋と関連重要事項）	準備担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
評議員会	16条 17条	第16条（権限） （1）理事及び監事の選任又は解任（2）理事及び監事の報酬等の額（3）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認（4）定款の変更（5）残余財産の処分（6）基本財産の処分又は除外の承認（7）その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項 第17条（開催） 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。	総務局			↑									
理事会	8条 9条 31条	理事会の承認事項 第8条（1）事業計画書、（2）収支予算書、（3）資金調達、（4）設備投資見込み 第9条（1）事業報告（2）事業報告の附属説明書（3）貸借対照表（4）損益計算書（正味財産増減計算書）（5）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属説明書（6）財産目録 理事会の職務 第31条（1）この法人の業務執行の決定（2）理事の職務の執行の監督（3）理事長、副理事長、及び常務理事の選定及び解職	総務局		↑	↑									↑
常務理事会	24条 1～3項	常務理事は理事会の議決に基づき日常の事務に従事する。常務理事は理事会の承認に基づく下記事業計画の推進に務める。 重要事項 1. 機関誌 腸内細菌学雑誌32巻2～4号、33巻1号の発行・配布及び英文合同誌 Bioscience of Microbiota, Food and Health37巻2～4号、38巻1号の配布 2. 期待される機関誌にするための諸施策への取組み（和文誌の特徴化と充実及び英文合同誌充実と発行への協力） 3 ホームページの改訂・充実 4. 腸内細菌学会の準備・開催 5. JBF研究奨励賞の選考及び授与 6. 企画総務国際委員会の審議に基づき、財団の将来的な方向性に関する検討 7. DVD「共生のはじまり」の活用	総務局・各委員会		↑		↑				↑				↑

定時評議員会
1. 左記の第16条に記載の(1)～(7)項に関する審議、承認。

第1回理事会
左記9条の(1)～(6)項の審議、承認

第2回理事会
1. 当年度事業経過の報告

第3回理事会
1. 当年度事業経過及び財政状況の報告
2. 左記8条の次年度に関する(1)～(4)項の審議、承認

第1回常務理事会
1. 前年度事業、収支決算確認
2. 第21回腸内細菌学会準備確認

第2回常務理事会
1. 腸内細菌学会総括
2. 事業遂行予定討議

第3回常務理事会
1. 事業遂行状況確認
2. 財務状況確認
3. 当年度決算見込み確認

第4回常務理事会
1. 次年度事業、予算素案討議
2. 財務状況確認

第5回常務理事会
1. 次年度事業、予算修正案討議

第6回常務理事会
1. 次年度事業計画、予算案決定
2. 当年度事業遂行状況確認

平成30年度事業計画

II. 事業計画－ 1

執行担当	事業計画内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
編集委員会	<p>1. 出版・情報提供事業</p> <p>1) 機関誌（英文、和文）の編集発行 国内外のビフィズス菌・乳酸菌を始めとする腸内細菌学研究の展開は目を見張るものがあり、主要な細菌のゲノム解析は一段落し、プロテオーム、メタボロームといった解析へと急速に進んでいる。また、腸内細菌叢の持つ機能は既に一般の人々にも浸透してきており、この分野の研究成果に対する期待は高く、より高度な専門性と学際性が要求されている。このような観点から、当財団は以下の様な機関誌の改革を行ってきた。 和文誌「腸内細菌学雑誌」は、ワーキンググループによる内容の精査・検討を行った。そして、総説では、「脳神経系（精神疾患）とMicrobiota」の特集を31巻1号から開始し、32巻1号で終了した。加えて、内容の更なる充実のため、次の特集について委員会で検討し、「腸内菌叢はコントロールできるか」とした。また、腸内細菌学会の発表演題をもとにした総説の投稿依頼をしていくこととした。 英文誌“Bioscience of Microbiota, Food and Health” は、日本ビフィズス菌センター、日本乳酸菌学会および日本食品免疫学会の三団体合同機関誌として発足後、順調に投稿数を増やすと共に、Impact Factor取得に向けた取り組みを行い、Clarivate Analytics社のSCIE（Science Citation Index Expanded）への掲載が2018年3月に決定された。 以下、今年度の計画案を示す。</p> <p>2) 「腸内細菌学雑誌」の発行 本誌は、原著、総説、研究室紹介、特許情報などを掲載してきた。今年度もワーキンググループによる更なる内容の精査・検討を重ね、より魅力的な内容をもった機関誌として発展させたい。なお、総説では、新たな企画として「腸内菌叢はコントロールできるか」の特集を32巻3号から開始する予定である。</p> <p>3) “Bioscience of Microbiota, Food and Health” の発行 本誌の発行には上記三団体が共同で設立した「BMFH出版会」があたる。当財団編集委員会は当財団から選出されたBMFH誌編集委員と協力して、質の高い原著や総説の掲載とその原稿の確保に努力する。なお、本誌はウェブ誌であるが、当財団の会員の便宜を考慮して当分は従来通り冊子も配布することとする</p>	↑ 英文誌 37巻 2号配布			↑ 英文誌 37巻 3号配布			↑ 英文誌 37巻 4号配布			↑ 英文誌 38巻 1号配布		
		↑ 和文誌 32巻 2号発行			↑ 和文誌 32巻 3号発行			↑ 和文誌 32巻 4号発行			↑ 和文誌 33巻 1号発行		
				↑ 編集委員会			↑ 編集委員会			↑ 編集委員会			↑ 編集委員会
情報広報委員会	<p>2) 情報提供掲載</p> <p>(1) ホームページの見直しと充実を進める。 (2) “用語集”や“よくある質問”など情報提供内容の大幅な整理を行い、項目を増やすことにより、財団事業に関連する学術的な情報を充実する。 (3) スマホ対応への改良を進める。 (4) 年2回の定例情報委員会と、委員会のメールによる情報交換により、ホームページの定期的な情報更新と迅速な対応を行う。 (5) メーリングリストにより、随時当センターに関連する学術情報発信を行い、必要があれば臨時の情報委員会を招集し対応する。</p>		↑ 情報広報委員会					↑ 情報広報委員会					

平成30年度事業計画

II. 事業計画－ 2

執行担当	事業計画内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学術委員会	<p>1. 学術集会事業</p> <p>1) 学会の開催 当財団事業の目的は宿主と微生物との関係に関する研究の学際的な取組みを産学が協同して支援することにある。本事業は機関誌の発行と並んで当財団の重要事業である。 (1) 本年度の第22回腸内細菌学会開催要項 日時：平成30年5月31日（木）・6月1日（金） 会場：タワーホール船堀 大会長：大野博司（理化学研究所） メインテーマ： 『宿主-腸内細菌相互作用—双方向制御の分子メカニズムに迫る—』 構成： ・海外特別講演 Mahesh Desai (Principal Investigator, Luxembourg Institute of Health)</p> <p>・国際シンポジウム1（英語）※AMED-CRESTとの共催 『New trends in microbiome research-微生物叢研究の新展開-』 岡田 随象（大阪大学大学院医学系研究科遺伝統計学） 竹田 潔（大阪大学大学院医学系研究科免疫制御学） 新蔵 礼子（東京大学分子細胞生物学研究所免疫・感染制御研究分野） 木村 郁夫（東京農工大学大学院農学研究院応用生命化学専攻） 松岡 悠美（千葉大学医学部皮膚科学教室）</p> <p>・国際シンポジウム2（英語） 『Forefront of M cell biology-M細胞生物学の最前線-』 Ifor Williams (Emory University, USA) Neil Mabbott (The University of Edinburgh) 澤 新一郎（北海道大学遺伝子病制御研究所感染病態教室） 佐藤 慎太郎（大阪大学微生物病研究所） 金谷 高史（理化学研究所統合生命医科学研究センター）</p> <p>・シンポジウム（日本語）『宇宙と微生物』 基調講演：太田 敏子（JAXAプロジェクトアドバイザー／筑波大学名誉教授） 高橋 智（筑波大学医学医療系解剖学・発生学） 那須 正夫（大阪大谷大学薬学部） 榎村 浩一（帝京大学医療共通教育研究センター） 加藤 完（理化学研究所統合生命医科学研究センター）</p> <p>・日本ビフィズス菌センター研究奨励賞受賞講演 倉島 洋介（千葉大学医学研究院イノベーション医学研究領域） 牧野 博（ヤクルト本社中央研究所微生物研究所）</p> <p>・市民公開講座『腸内フローラと健康』 辨野 義己/中島 淳 ・一般演題A（若手あるいは萌芽的研究）、B（募集による） ・一般演題Aより最優秀発表賞（原則1名）を選定し表彰 ・情報交換会 5月31日（木）18：00～19：30</p>				↑				↑			↑	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>学術委員会 I</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成30年(2018年)度学術集会の総括 ● 平成31年(2019年)度学会大会長の学術集会構想の提案(大会会場・日時・テーマ) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto; margin-top: 10px;"> <p>平成30年度学術集会開催 5月31日, 6月1日</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto; margin-top: 10px;"> <p>学術委員会 II</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成31年度学術集会特別講演者、シンポジスト決定 ● 一般演題募集要領 ● 座長等、当日の役割分担の決定 ● 開催案内パンフ内容 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto; margin-top: 10px;"> <p>学術委員会 III</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 平成31年度学術集会一般講演プログラムと座長の決定 ● 準備状況確認 </div>											
委員会	1. 当財団倫理規程に則り、利益相反、研究結果の公表規範に関する規定の遵守について検討し、必要な対応をおこなう。							原則年1回開催					

平成30年度事業計画

III. 事業補強計画

<p>常務理事会</p>	<p>1. 財団事業の普及・発展による公益性の向上 食品と免疫、腸内菌叢と免疫、この二つの主要課題への関心が高まっている。いずれも宿主の免疫機構を介した健康の増進あるいはその回復、維持に関わるものであり、それぞれの研究成果は共通し、あるいは相補うものである。それらは「宿主と微生物との共生」というコンセプトに基づく研究領域へと拡大し、関係の研究者は広範囲に及んでいる。それは身体状況に関する領域ごとに行われてきたこれまでの考察、すなわち栄養学、免疫学、細菌学などといった個別的な範囲内での考察にとどまってきたが、それらがライフサイエンスという共通の視点で語られるようになってきたことによる。いくつもの領域から関心が寄せられているこの研究の在り様は統合的にハイブリッドサイエンスの誕生とも称されている。このような潮流に乗り遅れることなく、当財団が設立の当初から堅持してきた学際的且つ産学共同で事業に取り組むという運営上の基本方針を有効に活用し、既存事業の見直し、新事業の立上げなどを通じ、財団事業の公益性向上に努めていく。</p>	<p>当財団設立趣意書にいう当該分野の学際的研究の推進に寄与するという点から、その主要事業を通じて関係情報発信の活発化と成果発表の場の提供の拡大を図り、関係大学、研究機関、企業の研究者の関心を高めたい。また、一般向けの公開講座、研修会等の開催の可能性を検討し、本財団の公益性を高める一助に加えていきたい。</p>
<p>企画総務国際委員会</p>	<p>2. 財団支援体制の強化（特別会員、団体会員、個人会員増対策） 当財団の事業活動はそれに賛同し、協力いただいていた会員各位からの支援によって支えられてきた。これは今後の財団事業の継続においても欠かせない重要な支援である。それに十分に答え得る事業内容であるように充実を図る。また、新規支援の依頼を広く行う必要があり、そのための施策を行う。</p>	<p>財団機関誌、記念書籍の割引配布、機関誌掲載論文別刷料金の割引、学会への招待、ホームページのリンク化など。</p>
<p>総務局</p>	<p>3. DVD「共生のはじまり」の有効活用 3-1) 教育施設への貸し出しと関連の講演 青少年の科学離れ対策の一環として、財団設立30周年記念DVD作品「共生のはじまり」の教育施設への貸し出しを行う。その際、要請があれば、関連の講演を行う。さらには本DVDの制作を担当されたアイカム社所蔵の関連DVDの借用を要請し、活用を図る。（ホームページ掲載予定。） 3-2) DVDの贈呈・寄贈 腸内細菌学会特別講演者に Tissier Medal と併せて本 DVD を寄贈する。また、特別会員新規加入企業に寄贈する。</p>	